

# 九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

## 事業計画書

提出日 2023 年 10 月 31 日

学 校 名	東海大学(熊本キャンパス)		
学部・学科名	経営学部観光ビジネス学科		
チ ャーム名 (個人参加の場合は任意)	Studio Think KyuuSyuu	エントリーNo.	2

### チームの紹介(任意項目)

私たちは、東海大学経営観光ビジネス学科の学生チーム「Studio Think KyuuSyuu(スタジオしん九州)」です。地方創生を目指して、実際に地域の方と触れ合い、取材や調査、イベント等を行っています。具体的にはラジオ番組制作※1)、上天草市湯島の猫のQOLの向上を目指した“ネコファースト”の取り組み(※2)、グリーンツーリズムの体験プログラムなどの実施を通し、卒業研究をしています。

※1 FMクマモト Step into AGRI～アグリに飛び込め～ <https://audee.jp/program/show/300005738>

※2 <https://mlabtokai.sakura.ne.jp/nekodango/top/top.php>

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/197945/> <https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/357856/>



### 1. 取り組みテーマについて (なぜこのテーマに取り組んだのか)

テーマ：初めて行った国や街は一生涯ファンになる

—大学の地域研究活動に海外の大学生に参加してもらう—

#### □初めての九州＝将来また来たくなる場所

リピーターを生み出すことにおいて、まず、九州を訪れてもらうことが肝心である(でないのリピーターにならない)。その相手が外国人である場合、初めて行った国や街のことは特別に思い入れを抱くようになるので、海外の若者にとって初めての海外体験が九州である、という状況を生み出したい。

→2023年夏にこのビジネスコンテスト応募のために大学生アンケートを実施した結果、「はじめて訪れた外国には今でも特別な愛着を持っていますか」の問いに対して、「はい」57.1%、「いいえ」38.1%であった。(回答37人)

→「はじめて行った国をまた訪れたいですか」の問いには、「はい」71.4%、「いいえ」28.6%であった。

→研究で行くとしたら、「文化を知りたい」「史跡調査」などが挙げられた。

※あくまで日本人学生の回答であるが、外国人学生も同様と考えられる。

#### □大学の地域づくりの活動に外国の大学生がジョイントする

例えば、私たちは2022年度の活動で、大分県竹田市の竹灯笼イベント「竹楽」と長野県安曇野市での研修を体験している。このような活動に姉妹校などの外国の大学生に来てもらい、一緒に活動してもらおう。



長野研修の記録（安曇野市観光協会） [https://www.youtube.com/watch?v=YVvIn\\_L8GG0](https://www.youtube.com/watch?v=YVvIn_L8GG0)

## □神 九州

“しん九州”のしんは、シンク（Think）キュウシュウ九州の音から来ている。

しんは、新、心、深、信、芯、伸、真、親、進など、いろいろな漢字を当てて、企画を生み出すことができる。

私たちは、今回、「神」をモチーフに竹田市と安曇野市での企画を提案する。私たちは、九州山地の中心に位置する竹田市と長野県の安曇野市を結ぶ観光連携の勉強をしており、神話の神々である豊玉姫（祖母山）とその弟である穂高見命（安曇野市穂高神社）を結ぶ両市の竹灯籠イベントをモデルに国内外の大学生が、研究活動などでこれに参加するプログラムを提案する。しん九州の“しん”に神を当てはめて企画したものである。

※竹田市 竹楽 <https://taketa.guide/topics/detail/5bccc583-9bb3-4c67-a070-08cb100991ae>

※安曇野市 神竹灯 [kamiakari.com](http://kamiakari.com)

このような“しん”の企画を、九州内の大学が実施し、そこに外国の大学生が参加するようにすれば、九州の産・学・地域をあげて統一的なインバウンド観光戦略を展開することができる。

## 2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて

私たちは、自分たちの経験をもとに、竹田市と安曇野市の関係者と相談し、以下のプログラムを提案する。



まちづくり竹田、竹楽実行委員会との会議



アップサイクル・キャンドルの試作の様子



### ■竹田市での体験プログラム

- ・竹灯籠用のロウソク作り(アップサイクル・キャンドル) ※参考資料 pdf ファイルを添付
- ・竹田で行う安曇野産のリンゴ売り
- ・竹楽の竹灯籠づくり

### ■長野県での体験)

- ・除雪車体験、雪下ろし体験
- ・スノーシュー(かんじき)トレッキング
- ・神竹灯への参加
- ・双体道祖神巡り

### ■海外の大学とのオンラインミーティング



実際に来日する学生以外にもオンラインでの関係（観光）人口を生み出すことができる。  
例えば、実際に来日するのが5人でも、オンラインミーティングではその何倍もの学生が九州を知ることになる。

### 3. 九州や地域社会への影響について

上記のような取り組みを九州にある大学が多数行っているため、それを全九州的に支援する仕組みを作ることによって、「はじめての海外が九州」という外国の若者を生み出したい。

私たちの研究室では、まず、TSMCの進出で注目されている台湾の大学生と私たちの交流を手始めにし、企画提案を行う。（現在、所属する研究室において台湾の大学へコラボの提案をしているが今年度は実現していない）。

各自治体の観光協会などは、現在でも、大学の地域活動を受け入れたり、商品開発などを大学生に提案してもらったりしているが、単発で終わっており、持続性が弱い。活性化の効果も学習効果も十分ではないのが実情と考えられる。受け入れ側の観光協会なども、ノウハウの獲得やネットワークづくりができていない。せっかくの取り組みが、九州全体の観光振興につながっていない。

九州全体で、しん九州をテーマに大学の取り組みを支援する、また広報することができれば、産・学・地域をあげた観光振興になる。大学にとっても、地域活動は、今後ますます重要になってくる。

### 4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介

海外旅行に行く際に若者にとっては費用負担の問題がある。これは、受け入れ側の日本人学生にとっても同じ問題がある。

ここでは、例えば、本モデルプランで提案する竹田市や安曇野市の行政や観光協会が海外から来る学生に対して助成金を提供する。以下のとおりである。

- ・ 10万円/人 × 5人 = 50万円/箇所（例えば、竹田市）
- ・ 50万円 × 30か所 = 1500万円（1年間の予算）・・・年間150人が来日
- ・ 1500万円 × 10年 = 1億5000万円 ……累積で1500人が来日

このような予算を、九州全体の取り組みとして実施することで、10年で1500人の外国人が来日し、その多くが九州を好きになり、長期的なコアのファン、リピーターになってくれると考える。

### 5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

授業規模は、上記に示したとおりである。まず、このような活動をする大学研究室のネットワークを作ること、さらに、予算面で、九州DMOがこのネットワークを管理するとともに、毎年活動成果の広報を行うことで賛同する各地の観光協会を生み出し、つないでいく。九州DMO、各地の観光協会・DMO、ホテルなどが協賛金として必要経費を少しずつ負担する。1か所で年間50万円であれば、可能な負担だと考える。

九州全体として、大学研究室と受け入れ地域の主体の交流会や学習会・発表会を開催する。また、大学では、こうした活動を基に研究論文を発表し、九州の観光のPRにつなぐ。

#### <記入上の注意>

- ・各項目の文字数の制限はありませんが、計画書全体で最大A4用紙片面3枚以内に収めてください。
- ・各項目の詳細説明のため概要図・グラフ・画像などの挿入や添付も可と致します。  
なお、解像度に画像が荒くなる場合がありますので、使用するフォントや写真等には留意下さい。